

秋田放送

活動名	ABS アナウンサー読み聞かせ隊
実施期間	令和7年12月～令和8年2月
実施回数	会場7回

【事業実施の成果・課題】

ABS アナウンサー読み聞かせ隊としての活動は、日常とは違う物語の世界に浸ってもらうこと、相手のことを思いやりながら伝えていくこと、コミュニケーションの大切さを理解してもらうことを念頭にそれぞれのアナウンサーが工夫を凝らしながら取り組んでいます。

今回は、例年より多い7校で開催できました。クマ騒動に揺れた街の学校、深い雪に閉ざされた山間の学校など様々です。どんな話題を抱えていけば喜んでくれるだろうと想像しながら準備を進めるアナウンサーたちの表情もどこか嬉しそうです。

私たちアナウンサーも、子どもたちのリアクションや感想、それらの一つ一つを大切にして仕事へのモチベーションアップにつなげています。

いつか、あの時読み聞かせを聞いて、伝える仕事を志しました、人とのつながりを大切にするようになりましたと言ってくれたら、私たちにとっては最高です。

次年度も、こうした出会いを大切にしながら取り組んでいきたいと思います。

課題としては、著作権のクリアが必須となっているので、出版社と直接交渉した結果を部内で蓄積し、書籍の選択にかかる時間の短縮に努めていきたいと考えています。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<酒井茉莉アナウンサー>

国語で学んだばかりという落語の絵本の読み聞かせだったので、児童の反応も良く、面白い所で自由に笑って聞いてくれていました。

反応がすぐ返ってくるので、アナウンサーにとっても表現の幅が広がる良い機会です。

<鴨下望美アナウンサー>

土崎小の近くにあるうどんそば自販機を題材にした絵本を選んだところ、児童の9割が知っていてとても良い雰囲気での読み聞かせができました。先生も驚くほど、皆集中していました。

<関向良子アナウンサー>

読み聞かせ（聞くこと）と話すこと（アナウンサー体験）を組み合わせることで、どの児童もより主体的に取り組んでくれました。

<藤田裕太郎アナウンサー>

より深く賢治ワールドを味わってもらおうと本を選びました。登場人物の個性が伝わるよう意識して読む中で、児童たちに「怖い」「ひどい」などの小さなリアクションがうれしかったです。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<泉小学校 教諭>

「まんじゅうこわい」を知っている児童も、声色、抑揚、表情に引き込まれ、夢中になって聞き入っていました。

<泉小学校 児童>

聞き上手になるとコミュニケーション力が高まることを初めて知りました。「言葉には力がある」と聞いて、すごく勇気づけられました。

<土崎小学校 教諭>

登場人物の気持ちが伝わってくる語りに、児童たちが感動して興味津々聞き入る姿に、「読み聞かせ」は高学年にとっても大切なものだと感じました。

<土崎小学校 児童>

読み聞かせは驚くほど頭に入ってきました。登場人物に合わせて読み分け、やさしい声だけどしっかり聞こえました。

<成章小学校 教諭>

伝えるということについて、普段のアナウンサーの意識を織り込んで話してくれて、児童たちの心に伝わるお話を聞くことができ有難かったです。

<成章小学校 児童>

雪の中、秋田市から高速を使い車で2時間かけ遠い大館市まで来てくれてうれしかったです。

<築山小学校 教諭>

「目を閉じて物語の世界観を楽しんでもいい」という藤田アナの言葉通り宮沢賢治の世界に没頭している児童がいました。

<築山小学校 児童>

読み方に驚きました。怒っている声は大きくするなど、自分が読むときと全然違っていました。

<外旭川小教諭>

児童たちが目を輝かせて聞き入る姿が印象的で、楽しい時間を過ごすことができました。

<外旭川小児童>

特に聞いてほしいことを大きな声で言ったり、句点のところはしっかり間を取ったりして、とても聞きやすかったです。

とても心がこもっていて、物語の絵を見なくても出来事が目に浮かび、様子が伝わってきました。